

開会挨拶 岡山済生会総合病院長 塩出純二

本日は済生会生活困窮者問題シンポジウムにお集まりいただきありがとうございます。

このシンポジウムは 2013 年に始まり、東京、山形、大阪、新潟、栃木、愛知、山口、石川に続いて今回が第 9 回目になります。そもそも済生会という組織は、明治 44 年（1911 年）、日清・日露戦争が終わったあと、日本中が大変な状況になっている時に明治天皇が済生勅語を出され、そのもとに生活困窮者を救おうということで設立されたのが済生会という組織であります。いま全国に 81 病院と 300 近くの福祉施設があります。

そのような趣旨の下で私たち病院も日々対応しております。私自身はこの 10 年余りは生活困窮者の中でも特にホームレスの健康相談などを定期的に行っておりますし、院長になってからは更生保護施設の健康相談も年数回かかわっております。他の職員もそれぞれの立場でかかわりを持っています。

生活困窮者と言いますと、どうしても経済的に困窮している人が最初にイメージとして出てくるのですが、現代社会ではそればかりではありません。人間関係の貧困から生活困窮になりうるということもあります。その一つのテーマとして今回の 8050 問題を取り上げました。80 代の高齢の親が 50 代の引きこもりの子どもの支えとなるという、非常に厳しい現状があるわけです。これがおそらく団塊の世代が 80 代になりますとますます大きな問題になってくるのではないかと思っています。この 8050 問題という非常にインパクトのある命名をされた勝部麗子様为本日の特別講演をお願いいたしました。

それから岡山県内でこういった問題に取り組んでおられる方々が何人もいらっしゃいますので、後半のシンポジウムにシンポジストとしてお招きしております。

済生会の役割の一つとして、このような生活困窮者にどのように向き合うべきかということを日々考えております。本日のシンポジウムが少しでも皆様方のお役に立ち、何らかの支援のきっかけになれば幸いと思っております。最後までどうぞご参加くださいますようお願いいたします。